



特集 その後どのように暮らしていますか？

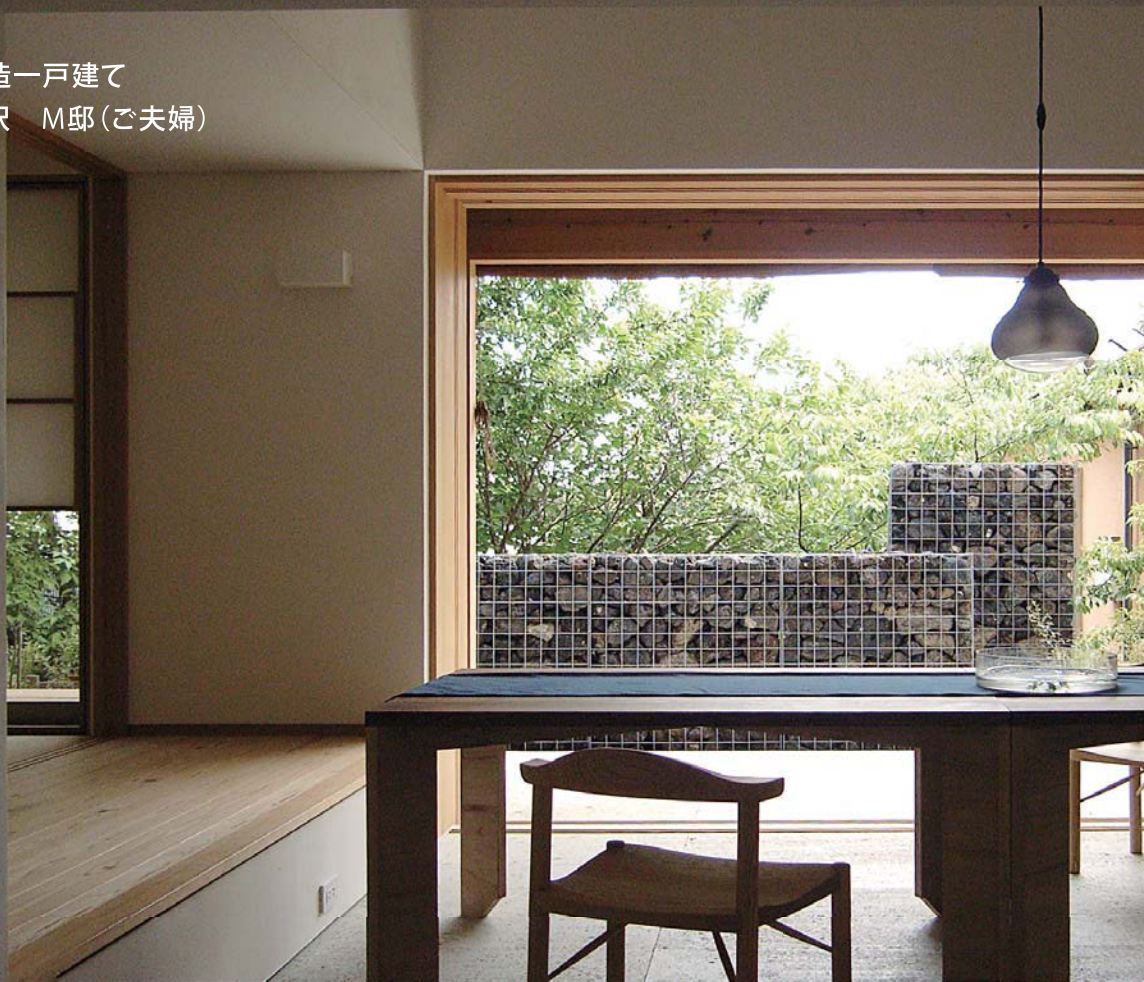
## おしどり夫婦の家づくり



特集 その後どのように暮らしていますか？

# おしどり夫婦の家づくり

埼玉県所沢市 | 木造一戸建て  
ソーラータウン西所沢 M邸(ご夫婦)



## 1 ストーリー

ソーラータウン西所沢のまちに暮らすM様の家を訪ねました。住みはじめてから2年が経ち、ご近所さんとの交流を楽しみながら、日々を過ごされているM様ご夫婦。ここに住むことを決めたキッカケの一つが土地の魅力だったといいます。

「土地探しでは100ヶ所くらい見てまわりましたよ。その中で夫婦ともに良い!と思った場所が、このソーラータウン西所沢だったんです」。周りに自然が適度にあって、敷地の中にも緑が多い家がいっぱいある。ゆるやかな傾斜から眺める周りの家の様子もとても綺麗で、そんなまち全体のバランスがとても良かったと語るM様。「まだ土地購入が決まる前に、ソーラータウン西所沢のイベント『にしと祭』に参加したことがあったんですよ。気づけば半日もタウンの方とお酒を酌み交わっていて、最後はタウンの方が、私たちが当時住んでいた自宅まで送って下さったこともありました。そんな住人のみなさんのおおらかな感じや、人柄の良さにもホっとしたのを憶えています」。



## 2

### ご近所さんと自然との暮らし

「このまちに暮らしはじめてから圧倒的に変わったのは、週末の時間がとても豊かになったことです。これまで都会で暮らしていましたが、騒がしくてプライバシーもなく、心も体も休まらず、週末は昼近くまで寝ていました。今では7時頃には起きて、散歩して、近所のコーヒー屋さんに夫婦二人でモーニングに行くのも楽しみになってます」。朝は鳥の鳴き声で目が覚め、昼間は近所の子もたちが楽しそうに遊ぶ声に元気をもらい、夏の夜は鈴虫の声を聞きながら眠る……そんな素敵な日々を送っているというM様。普段の何気ない生活の中に小さな幸せを感じます。

また、家を建てる前からイベントなどでよく顔を合わせていたというソーラータウンの住人の方たちとは、住んでから、より一層関係が活発になったそうです。「最初にご近所付合いの経験がなかったので戸惑いもあったけれど、BBQやマラソン大会に誘ってもらって、みんなで一緒に何かをする面白さを久しぶりに思い出して、すごく楽しいです。あとは、AIBAスタッフの新さんも同じまちに住んでいるので、もし何かあってもすぐに相談できるのも安心なんですよ」。

住む家の性能はもちろん、家のまわりの自然環境やあたたかいご近所さんたちとのつながりがあることで、毎日の暮らしが有難いものへと変わっていきます。

タウンの方が集った冬のイベント  
「薪カキ会」▶



### 3

## 暮らしを設計する



### 人が集まる通庭

ご夫婦で建築のお仕事をされているM様。実はこの家もご自身で設計されたお住まいです。玄関からダイニング、そして庭まで続く大谷石の土間は「通庭」と名づけられ、「タウンの方がふらっと立ち寄って一緒に食事をつくったり食べたりできる場にしたい」——そんなM様の想いからつくられました。タウンの人がたまたま集ったのがきっかけで、薪ストーブを楽しみながら牡蠣を食べる「薪カキ会」が冬の恒例イベントになりつつあるそうです。「いずれは、タウンの全世帯の方がいらっしやると嬉しいです」とM様。



### 季節ごとの暮らし方を楽しむ

薪ストーブとソファのある小さな土間や、花火の見えるインナーバルコニーなど、M様の家には心地よく過ごせる居場所がたくさんあります。「季節や天気によってくつろいだり、寝る場所を自由にかえたりしています。その時々によって居心地の良い場所を探す猫のように(笑)過ごしています」とM様。その言葉の通り、夏は風通しの良いインナーバルコニーやテラスがあったり、冬の寒い日には、あたたかい陽の光の中で日向ぼっこできる縁側があったり……。季節ごとの部屋の特徴を楽しみながら暮らせる魅力的なお住まいです。



左上：薪ストーブのある小さな土間。右上：溶岩を積んだ「打水堀」。石の間から水が流れ出ます。左下：書齋とつながる書庫。右下：インナーバルコニーでくつろぐ奥様。夏は花火を見ながらビールを飲んでいます。

### 取材後記

定期点検の日に、M邸で「薪カキ会」に参加させていただきました。家の建築に関わったAIBAスタッフや大工さんたちも集まり、素敵な家で奥様の美味しい手料理をいただき……と、なんとも楽しく貴重な時間を過ごさせていただきました。その席でM様は「ゆくゆくは、書齋で夫婦の設計事務所をオープンしたい」とのこと。楽しみです！（記：広報 吉川）



設計：M様 / 監修：田中敏博建築設計事務所 / 撮影：寺島由里佳 / 取材：伊藤・吉川  
「ソーラータウン西所沢」の暮らしにご興味がある方は「あいばの不動産」をご覧ください→ <http://aiba-fudousan.jp/>



特集 その後どのように暮らしていますか？

## 向こう三軒両隣の暮らし



特集 その後どのように暮らしていますか？

## 向こう三軒両隣のある暮らし

埼玉県所沢市 | 木造一戸建て  
ソーラータウン西所沢 U邸(ご夫婦+お子様3人)

1

### ストーリー

今回の特集では、ソーラータウン西所沢のまちに暮らすU様を訪ねました。家の前で子どもたちが仲良く遊んでいたり、ご近所さん同士が気持ちよく挨拶をしあったり……どこかほっとする光景が日常的にあるまち。

U様がこのまちに住むきっかけとなったのが、所沢市の古民家付き農園「corot」で開催されたピザ焼きイベントでした。「たまたまソーラータウン西所沢の住まい手さんも何人が参加されていて、暮らしぶりやまちの人同士の交流など、生の声を聞きました。そしていろんな土地を見てきたなかで、『安ければいい、便利だからいい』というわけではないことに気づいたんです」。家はどこにでも建てられるけれど、「このまちでしかできない」ご近所さんとの心地よい暮らし方がある——そう思い、ソーラータウンに住むことを選択したり様。

暮らしはじめてからもうすぐ3年になりますが、今日もまちの仲間との楽しい日々を過ごされています。

## 2

### 向こう三軒両隣

ソーラータウン西所沢は、建築家の田中敏博さんが「いい関係の向こう三軒両隣」の想いを込めて設計されました。まちにおおらかに開きながらやわらかく閉じる、お互いを気づかいあえるような、家同士のちょうどよい距離感。実際に、このまちでは住まい手さんたちの交流が自然と生まれています。年に3回、まちのなかの空き地でBBQや芋煮会などのイベントを開催したり、みんなで地域のマラソン大会に参加することもあります。

「ママや子ども同士の仲が良いのはもちろんですが、ソーラータウン西所沢の一番の特徴は、パパ同士がすごく仲が良いことだと思います!」とご主人。お互いの家でご飯を食べたり、会社帰りに駅前の飲み屋さんを集まって、楽しい話で盛り上がることもあれば時にはまじめなお仕事の話もしたり。「みんな休日もバラバラなのに、うまく予定を合わせて情報交換できているんです。同じまちにこんなに気の合う仲間が集まるのもめずらしいですし、他では体験できないこのまちの良さだと思っています。今では向こう三軒両隣どころか、向こう五、六軒両隣くらい(笑)みんな仲良しですよ」。



ソーラータウン西所沢の  
住まい手さんたち▶



### 3 日々の暮らし方



#### 笑顔の生まれる庭

U邸のお庭には、なんとご夫婦お手製のピザ窯がありました。レンガの曲面まで綺麗に仕上げられていて、とても自作とは思えないほどの完成度!ご主人が火入れをして、奥様が生地から作ったピザや焼き芋をご近所さんにふるまったり……この庭からたくさんの笑顔が生まれます。ウッドデッキに机と椅子を並べれば、家にいながらにしてアウトドア気分も楽しむことができる、家族のお気に入りの場所。



#### いつでも見守れる距離

「キッチンの窓からは近所の子どもの遊んでいる姿が見えるんです。向こうからも私の姿が見えているだろうし、お互いに声を掛けあえるのが嬉しいですね。ふつう隣の家同士のちょうど良い距離感って難しいけれど、このまちはどこの家も『いつでも来ていいよ』と言い合える居心地の良さがあるんです。住んでみて、ここ以上に良いところは無い!って思ってます」。料理の際にお醤油を切らしてしまった時、ご近所さんと貸し借りすることもあるという奥様。お互いを気づかいあえる、昔ながらのあたたかい関係がこのまちにはありました。



左上:リビングの円卓で遊ぶ様子親子。  
右上:大黒柱に刻まれた子どもたちの成長の記録。左下:息子さん力作のレゴ。左下:キッチンでピザをつくる奥様。



#### 取材後記

とてもおらかで明るい様ご家族。ピザ窯でお芋を焼いていると、子どもたちが遊びに来て、みんなで一緒に美味しく食べたり、とても賑やかな一日でした。まわりの人たちとの関係が本当にちょうど良い距離で、まち全体が大きな家族のような安心感がありました。素敵なお近所さんがいると、暮らしもいっそう楽しくなりますね♪ (記:広報 吉川)



設計:田中敏博建築設計事務所 / 撮影:寺島由里佳 / 取材:伊藤・吉川  
「ソーラータウン西所沢」の暮らしにご興味がある方は「あいほの不動産」をご覧ください→ <http://aiba-fudousan.jp/>